

イフジ産業(株) 藤井宗 述べて多数の出席者に謝情勢を①市場②供給③需をグラフで示した。

藤井社長のあいさつに「味で大事なことを次いで、JA全農たまごでいる」と説明。

(45%)が農業法人などに分析されていないものに雇用され、9割は非農①荷主の商慣行が変わる家出身だったことも紹す、運ばざるを得ないこ

取引先の生産・流通関係者約130人が参加

いる現状を説明した。し、今年になってようやく、このうち飼料価格は21く70年当時の2・10倍と

ることに触れた。介。支援策については、と②物流の担い手の使命

れた改正物流効率化法で、をずらしたり、可能で
「すべての荷主に物流効れば配達日を毎日から週、会社も、私自身も、
れれば配達日を毎日から週、従業員皆がたくさん成長

業男や役職の垣村を越えて、ざっくりばらんに課題を共有し、未来を向けを

8年10月期以降、インバウンド需要が右に高騰し始め、生産に上っていることを指摘し、

言価については、様々な新たな「肩書」を授けられた。研修を始める際には「急な変動要因がある中で同社に施す際などに年間最大の方で現場からは「急な」

率化の取組みの努力が、2回に減らすなど、小さくすることかできた。関東

この中で藤井社長は冒頭、「私どもの液卵というビジネスは、鶏卵産業関係者の皆様との強固な信頼関係があつてこそ、初めて成り立つもの」と

知恵を学ぶ機会になれ
ば」と述べた。

飼料高騰やHPAI
が供給に与える影響

中田氏は、近年の鶏卵

万5000円以上昇。これに対応して21年半からは22年後半まで付けから22年後半まで付け羽数の減少傾向が続き、数9・5日)の1日当たり平均鶏卵喫食個数をMサイズ1・5個として、

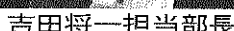
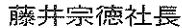
ラインのシミュレーションでは、11月頃に1億3000万羽台に届くとみられることを説明した。

人手不足と物流問題

吉田氏は、トラック運賃が上がり、3月の政府

含む「雇用就農の総合的な推進」や、求職者の子で、繁忙期はトラックを用意できず、荷物を運べない状況が生じた」といった声が出ており、30年の輸

送の5割で荷持ち・荷役 公正取引委員会が公表している取適法のテキストによるとでは「中小受託事業者が、4月に帝国データバンクが発表した調査で、約1万社のうち同法に到着したもの、委託事業者が準備を終えてからこそで、この場を借り



取引先の鶏卵生産・流通関係者を中心に約130人が参加して熱心に聴講した

て例示していることや、実際にトラック・物流Gメンが法的措置に動いた違反原因事例の4～5割は「長時間の荷待ち」が占めていることも説明。

飼料輸送関係では①飼料タンクの一斉点検②タンクの管理責任の明確化③高所作業の削減や昇降作業の安全性確保——などを要望し、「長期的視点での持続可能な輸送体制構築が必須」とした。

